

## 反復性耳下腺炎

### 原因

はっきりとした原因は不明ですが、耳下腺の先天性異常、唾液停滞、アレルギー反応、ウイルス感染、内分泌の異常など多くの発症要因が推定されます。また上気道感染や疲労によるもの、虫歯によるものもあります。

### 年齢

早いものでは1歳未満より発症し、5～6歳でピークが存在します。1年間に1～5回の耳下腺の腫れを繰り返し、それが5年以上にわたって生じ、思春期以降は症状がなくなります。

### 症状

耳下腺の腫れが特徴で、通常腫れは片側のみの場合が多いが、両側に見られるもの、または交互に腫れる場合もあります。

腫れは1～2日で消失するものもあるが、1ヶ月以上持続することもあります。

その腫れは、おたふく風邪より硬く痛みは軽く赤みもありません。熱は37.0℃台の微熱程度で、何度も腫れを繰り返す場合、熱はありません。

### 治療

特別なものはありません。

細菌感染を考え、抗生剤の投与、痛みが強い場合には冷湿布、消炎鎮痛剤の投与を行います。

### 看護

食事、入浴に関しては、おたふく風邪と一緒にです。

### 予防

唾液の分泌をよくするため酸味のを多くとりましょう。耳下腺マッサージも効果が期待されます。耳鼻科では、耳下腺造影や耳下腺洗浄が行われることもあります。

口の中は、いつも清潔にし、特に虫歯があれば治療をしておきましょう。

## 予 後

一般的に良好です。学童期～思春期頃までに自然に治ります。  
13～15歳の間に80～90%が治るといわれています。

(2002.11)